事例No.	2282
公表年度	R4
団体の属性	指定都市
団体名	新潟県新潟市

事例区分	地域活性化

タグ	・観光 ・関係人口 ・EBPM

事例種類	経済効果の検証

事例内容・タイトル

「にいがた食の陣」開催を通じた、中心市街地の賑わい創出

出典

地方自治研究機構：近接する都市整備に伴う相互波及・効果を踏まえた経済効果の検証に関する調査研究（令和２年度）

<調査研究事業：近接する都市整備に伴う相互波及・効果を踏まえた経済効果の検証に関する調査研究（令和２年度）>

〇近接する都市整備に伴う相互波及・効果を踏まえた経済効果の検証

・「にいがた食の陣」開催を通じた、中心市街地のにぎわい創出

取組団体：新潟市

取組内容：「にいがた食の陣」は、新潟市の中心市街地再生を目的とした、地域の「食」に着目し継続的に実施されている取組

１．取組の背景・目的

「にいがた食の陣」は、新潟市の中心市街地再生を目的とした、地域の「食」に着目し継続的に実施されている取組事例である。

新潟市の中心市街地の一画である、古町地区は、大型店の開店によって周辺で空き店舗が目立つようになった。加えて、新潟における「冬は暗くて寒い」というイメージが定着し、地区の活性化のためににぎわい創出の仕掛けが必要とされた。

このような背景から、当時の新潟市長の声がけによって、庁内で古町地区活性化のための取組が検討されることとなった。次第に、地元商店街や民間事業者にもアイディア検討の輪が広がり、平成４（1992）年、新潟の冬の特産物の販売等のイベントが初めて開催された。これが、「にいがた食の陣」である。

「にいがた食の陣」は、新潟市が特別後援を務めている、にいがた食の陣実行委員会、地元関係者・団体に加えて、地元客、観光客等、多様な人々の連携、協力、共感によって成立している。

近年は、幕末から明治にかけて開かれた「開港５港」に含まれる、横浜、長崎等との連携を含んだ、県外を巻き込んだイベントに成長している。コロナ禍前には、「新潟春節祭」の開催によって、中国との交流も図られた。このように、地域の活性化だけではなく、地域外との食文化を通じた連携もめざされることとなった。

２．取組の内容

はじめに、「にいがた食の陣」の一環として近年開催されている主なイベントや、その他実施されている取組を紹介する。飲食関連のイベントとして、地域の飲食業を支援するために、「CRAFT」をテーマとした「食の陣 CRAFT」が定期的に行われている（新型コロナウィルス感染症流行の影響で中止の場合もあり）。このイベントでは、クラフトビール、ワイン等のメーカー・委託業者や、飲食業者が決められたスペースに出店し、来客者に飲食を楽しんでもらっている。出店に際し、地域限定のクラフトビールやワインの提供、これらに合った食事のメニューの販売が条件とされている。また、当イベントにおける決済は、以下で紹介する「食の陣ペイ」となっており、この点からも地域振興・密着をめざした取組である。

図表 1 食の陣 CRAFT の様子



出典：にいがた食の陣「食の情報広場」

（https://www.shokuno-jin.com/info/page/2）

新潟市の地域振興策のひとつとして、にいがた食の陣実行委員会では、電子地域マネー「食の陣ペイ」を採用している。他地域で採用されている電子地域マネーのように、市内の対象箇所で現金によるチャージや、クレジットカードによるオンラインチャージが可能である。上記の食の陣 CRAFT のようなイベントに加えて、加盟店、施設等において通年で使用することができる。

図表 2 電子通貨マネー「食の陣ペイ」



出典：にいがた食の陣「食の陣ペイ」

（https://www.shokuno-jin.com/pay）

さらに、コロナ禍の影響で令和３（2021）、４（2022）年は中止となったが、毎年２月に「にいがた　冬　食の陣・当日座」という、新潟の特産物を活かした飲食販売、物産販売、産直販売、その他キャンペーンが、新潟駅近くで実施される。「当日座」では、屋台形式で多くの店が出店し、まちのにぎわいに貢献している。

その他、旅行会社の協力による、「食の陣ペイ」や新潟市観光循環バス１日券がセットになったプランの販売等、過去にも様々な取組が行われた。また、コロナウィルス感染急拡大下におい

ては、「お家 de 食の陣」といった、対象店舗のテイクアウトメニューを「食の陣ペイ」で支払うことで割引サービスを受けることができるキャンペーンも実施された。上記のイベントや電子地域通貨も、工夫が凝らされ時代に合わせて進化したものである。このように、環境やニーズの変化に応じた「にいがた食の陣」は、息の長い取組となっている。

３．成果・課題

「にいがた食の陣」の一連の取組による成果は、主に次の点が考えられる。第一に、新潟の食文化を活かした様々な取組を実施することで、この地域の「食」ブランドの確立に成功した点である。新潟市として、食を通じた人々の交流やまちの発展をめざす「食文化創造都市にいがた」を掲げており、「にいがた食の陣」もこれに貢献していると考えられる。

第二に、中心市街地における集客増とそれに伴う経済効果が挙げられる。コロナ禍前の情報であるが、平成 27（2015）年、「当日座」に２日間で約 25 万人が参加、旅行商品の利用で 7,500 人が新潟市に来訪した。

第三に、国内外の地域との経済等の連携強化が考えられる。令和２（2020）年、上述の「開港５港」に当たる都市である、函館、横浜、神戸、長崎と連携して、それぞれのご当地料理が「当日座」で提供された。また、同じく上述の「新潟春節祭」においては、中国との連携強化によって、国外からの観光客誘致に成功した。

これらの成果の要因として、以下の三点が考えられる。第一に、新潟の「食」をポテンシャルとして活用している点である。ここでは、飲食業や旅行業をはじめ、裾野産業を巻き込み、「にいがた食の陣」を盛り上げていった。

第四に、旅行会社とのタイアップで、コロナ禍前の地域クーポン「湊町券」、現在の「食の陣ペイ」等とパック旅行商品をセットで販売することで、多くの関係者・団体にとって有益となる取組を実施した点である。「食の陣ペイ」は、提携する店舗や施設で利用することができるため、旅行会社だけではなく、飲食業等、その他の業界にとっても魅力的であったと考えられる。

第五に、各種イベントやキャンペーンを企画・運営する、にいがた食の陣実行委員会の実行力のある体制である。現在、同実行委員会は、特別後援の新潟市を筆頭に、多くの団体や事業者から後援や協力を得ながら、多数の構成団体から成り立っている。委員会発足当初から、食の陣運営のために、様々な関係者・団体・事業者との交渉を重ね、高い実行力を発揮してきた。このような強力な体制が、「にいがた食の陣」が成功し、長く続いている要因である。

【参考】

＜URL＞

にいがた食の陣：

https://www.shokuno-jin.com/

新潟市「食文化創造都市にいがたの概要」：

https://www.city.niigata.lg.jp/business/shoku_hana/shokubunkasozo/shokubunka-gaiyo.html

＜資料・文献＞

経済産業省・株式会社野村総合研究所（2017）「街元気・まちづくり事例集―新たな雇用と投資の喚起をめざして―（ver.1.0）」、pp. 33-39

日本経済新聞電子版「新潟市「にいがた食の陣」、全国の食そろうイベントに」、2020 年２月 12 日